

年金広報・教育の取組みと在り方

厚生労働省 小金井 雄司 氏

司会 それでは、時間となりましたので、セッション「年金広報・教育の取組みと在り方」を開始いたします。司会を務めさせていただきます、三井住友信託銀行の井出と申します。よろしくお願いいたします。今回は、少子高齢化という社会環境を踏まえ、公的年金に対する信頼感の向上を図る年金広報の取組みについて、ご講演をいただきます。若い人にとって、高齢期のことは先のことでもあって、経験もできません。自分のこととして実感が持てないという課題については、企業年金も個人年金も同様にあると思っています。いろいろな意味で参考になると思いますので、今回、ご講演をお願いしております。

本日のご講演は、現在開催されている年金広報検討会において、国民の目線に立った分かりやすい年金広報の在り方についてご検討されております、厚生労働省年金局総務課年金広報企画室の小金井雄司室長補佐に、ご解説をいただきます。小金井室長補佐は、1995年に旧社会保険庁に入庁され、2003年から年金局年金課で年金制度改正、2011年から年金局国際年金課で社会保障協定に携わられました。その後、2020年より、現在の年金局総務課年金広報企画室にて、年金広報に従事されております。それでは、小金井様、よろしくお願い申し上げます。

小金井 皆さん、おはようございます。厚生労働省年金局総務課年金広報企画室の小金井と申します。本日は、よろしくお願いいたします。最初に、ここの会場はマスクの着用は任意と先ほどお聞きしたのですが、一応、厚生労働省の職員でもありますので、感染対策は万全にということで、マスクを着けてお話しいたします。

最初に、この年次大会のプレゼンテーションということで、さまざまなプログラムが用意されている中で、セッションCのお時間を頂きました。どうもありがとうございます。年金の広報と教育の取組み方と在り方ということで、少しお話をいたします。事前にプログラムを頂いていまして、どのような話を皆さんがされるのか、他のセッションのタイトルを見ましたところ、それぞれの発表者、講師の皆様ですね。日頃のいろいろな研究の成果や分析、今後の課題・展望など、さまざまな話をされるようで、これから自分がお話しすることが趣旨にうまく沿っているものかどうか不安なのですけれども、もしかすると、やや趣が違ってしまうかもしれませんが、朝の一コマめのセッションですので、少しリラックスして耳を傾けていただければと思っています。

年金広報・教育の取組みと在り方

厚生労働省年金局総務課

年金広報企画室

小金井 雄司

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

では、資料に沿って話を進めていきますが、事前に資料が既に展開されているということなので、もう目を通されている方も多くいらっしゃるかもしれません。タイトルが「年金の広報と教育の取組み方と在り方」となっておりますが、われわれもマーケティングの専門家や教育の専門家などではありません。今、年金はいろいろなところでいろいろな話題になりますが、正しく理解してもらい、それぞれで考えてもらうようにするためにはどうしたらいいかというところで、日々取り組んでいます。その取組みがどのようなものであるかということ、少し紹介をいたしますので、何かの参考になれば幸いです。

これをお聞きの皆さんも、今後、会社にはいろいろな部署があるかと思うのですが、宣伝などの部署にご異動される、あるいは、今、そちらのセクションに身を置かれている方もいるかもしれませんが、その際に、今まで自分がやってきた分野とはまた違った、畑違いの仕事を急にしなければいけなくなるようなこともあるかもしれません。そのようなときの参考になればよいかなと思っております。



では、最初に、私が所属している年金広報企画室ができた経緯を簡単にお話しします。

年金広報企画室とは

令和2年4月、年金局に年金広報企画室を設置

設置の経緯

一般的に、行政府による「広報」とは、施策を広く一般の人に知らせることをいう。公的年金分野における「広報」は、

- ①世の中の人に、適時のタイミングで、変更点を「知ってもらうこと」に加えて、
- ②世の中の人に、常に「広く知ってもらうこと」、「考えてもらうこと」という2つの使命を担っている。

特に②が重要であり、まず「広く知ってもらう」ことについてであるが、公的年金制度は、「個人」が支払う保険料・受け取る年金額というミクロ的な視点と、「社会・経済活動」の中での公的年金制度が担っている機能というマクロ的な視点で見える世界が全く異なっている。このことについて「広い」視野を持って知ってもらう必要がある。

次に「考えてもらう」ことについてであるが、昨今、技術が発展するスピードが加速度的に急速になり、社会制度がその変革に追いつかない状況が散見され、今後更にこうした状況は増えるのではないかと考えている。このような社会環境下では、集約的な社会規範を形成するのは困難であり、できることと言えば、思考し続けること、ディスカッションし続けること、社会的な議論を常に活性化させていくことである。これは、特に、世の中の人々の関心が高い公的年金制度において肝要である。

年金広報は、「世の人々に訴えかけ、自分の考えをきちんと示して、広く理解してもらい、考えてもらう」社会的機運を醸成することが使命なのである。

こうした使命の下、令和2年4月、年金局総務課内に年金広報企画室が設置された。

3

年金広報企画室は令和2年4月に年金局の中に設置されました。ですので、まだ1年半しかたっていないのですが、それまでも年金の広報は細々と総務課の職員が何名かでやっていたのですけれども、少し体制を強化しようということで、総務課の中に一つの室を作って広報をやっていこうということになった次第でございます。

そうは言っても、特別に専門家を集めた集団というわけでもなくて、ただ単に通常の人事異動などで年金局内の職員が配置されたということですので、1年半前は、広報に関しては素人

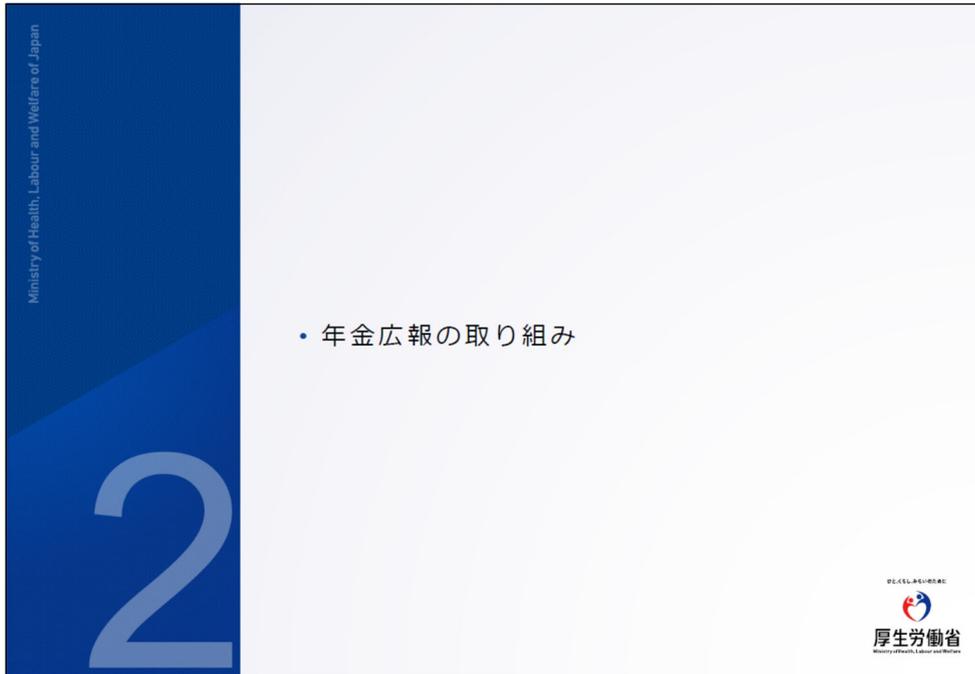
の集まりという感じでした。しかも、「若い世代への広報」と大きく言っているのですが、実際に集められた職員が、40代以上のおじさんばかり。私も先ほどの経歴の紹介で、いつから働き始めたか紹介がありましたけれども、それから逆算すると50を過ぎて、おじさんばかりの集まりでスタートということになりました。ですから、少し恥ずかしいのですけれども、わが広報室は、40代前半はまだ若手職員の部類に入るといって、一昔前のプロレス団体のようになっております。

年金の広報には二つの使命があると思っております。一つは、適切なタイミングで知ってもらうこと。もう一つが、常に広く皆様に知って、考えてもらうこと。この二つがあるのではないかとわれわれは考えております。

一つめの①につきましては、広報の世界で広く一般に言われていることですので、年金に限ったことではないのですが、例えば年金の世界で言いますと、5年に1回の財政検証のタイミングで、年金制度が大きく変わる改正が行われます。改正されると、それぞれ改正の内容が順を追って施行されていくわけですが、その施行のタイミングに合わせて内容を周知していくということになります。これは別に年金に限ったことではなく、他の世界でも、何かが変われば、あるいは何かを新しく始めれば、それをきちんと広報していくということはあるので、それが一つめの使命になります。

もう一つは、こちらが結構難しいことでした。常に広く知ってもらって、常に考えてもらうということですね。さらに②は二つに分かれまして、年金の場合で言いますと、「ミクロ的な視点とマクロ的な視点」と書いてありますが、「個人単位」で考える場合と、「社会全体」で考える場合、この二つに分かれると思っております。給付と負担を個人で考える場合、「幾らぐらい保険料を払ったら、どれぐらいの年金が受け取れる。」、そのようなところを考えるのが、ミクロ的な視点です。もう一つは、経済・社会全体の中で年金制度が担っている役割などを考えていくことがマクロ的な視点と、われわれは位置づけています。このマクロ的な視点をご理解いただくことがなかなか難しいということがあり、このような視点からきちんと考えて、広めていこうということで、広報企画室が昨年4月に設置されたということでございます。

年金広報企画室は年金局にありますので、年金の広報をやるのですが、一つの制度に特化して広報を考え、企画する部署が厚生労働省に前例がなく、今回、年金局が初めてということになります。社会保障全体として広報などを考えていく部署はあるのですが、単一の制度、労働や介護、医療、年金などがありますけれども、そのような一つの法律に特化して広報していく、それを検討していく部署は今回初めてできたということで、まだ日は浅いのですが、われわれの室がどのような成果を出すかによって、今後このような部署が省内にも増えてくるかもしれないと思っております。



取組みの方に入っていきますが、ミクロ的な視点、マクロ的な視点、社会全体で年金制度を考えていこうといったところで、どうしたらそのようなところを理解してもらえるのかということになります。われわれは素人集団ですので、まず考えたことが、プロに聞こうということです。その道のプロがたくさんいらっしゃるの、われわれのような素人が集まってポスターなどのコンテンツを闇雲に作っても、いいものができるわけではない。これは事実なわけです、はっきり言いますけれども。

年金広報検討会（平成31年年2月設置）

年金広報検討会は以下の論点について検討を行う。

- (1) 年金広報・教育に関する各種事業
- (2) 平均寿命の伸長化や働き方の多様化等を踏まえた今後の年金広報のあり方

構成員	これまでの議論
<p>所 属 ・ 役 職</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 上田 憲一郎 帝京大学経済学部経営学科 教授 太田 英利 株式会社データ・ワン 代表取締役社長 佐久間 智之 株式会社PRDESIGN JAPAN 代表取締役社長 殿村 美樹 株式会社T Mオフィス 代表取締役 富永 朋信 株式会社 Preferred Networks 執行役員 原佳 奈子 株式会社 T I Mコンサルティング 取締役 森下 郁恵 株式会社宣伝会議『ブレーション』編集長 山口 真一 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 横尾 良美 実利用者研究機構 理事長 <p>(○は座長)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年金広報計画 (年金局、日本年金機構、国基連、企年連、GPIF) 2. 年金広報コンテスト、学生との対話集会 3. 年金ポータル 4. 年金の「見える化」Web 5. 年金生活者支援給付金 6. 被用者保険適用拡大 7. 一緒に検証！財政検証 8. 年金マンガ、年金クイズ動画

5

ここで言う「いいもの」とは、コンテンツのクオリティーもそうですが、どれだけいいもの

を作っても、見てもらえなかったり、響かなかったりすれば意味がないということがあります。どのような伝え方をするのがいいのか、使い方も含めて、「きちんと伝わる広報」ということを今までわれわれはあまり意識してこなかったものですから、そこから学ばなければいけないということです。その道のプロの方々にお聞きしながら、一緒に年金の広報の在り方を考えていくということで、「年金広報検討会」というものができました。これは広報企画室ができる更に1年前、平成31年2月にできました。

これまでいろいろな議論をしてきたのですが、この構成員を見ていただければ分かると思うのですが、皆さんご存じかもしれませんが、例えば厚生労働省の年金局にある検討会ということで言いますと、一番有名なものが、社会保障審議会年金部会。いわゆる社会保障審議会の下にくっついているいろいろな部会、検討会が有名かと思うのですが、そのような検討会でおなじみのものとは少し違った顔ぶれが並んでいることが分かると思います。原佳奈子さんなどは、社会保障審議会や年金部会でも委員をされていますので、おなじみかもしれません。

あとは、一番上の上田憲一郎教授ですね。帝京大学の経営学科の教授ですけれども、今、上田先生に座長を務めていただいています。上田先生は、たしかDCだったかな。確定拠出年金などの分野の専門家だったと思うのですが、そのようなところを通じて学生の方に社会保障を教えて、ご自身もいろいろと研究をされている先生でございます。元々銀行にお勤めで、そのあと教授になられた方ですので、もしかすると、今日お話を聴いている方も知っているかもしれないですね。先輩に当たる方、後輩に当たる方がいるのかもしれませんが、上田教授に座長を務めていただいております。

1人ずつ紹介していくと時間がなくなってしまうので、興味があれば、ネットなどで検索して経歴などを見ていただければと思うのですが、もう1人、佐久間智之さん。少しお話をしておこうかと思うのですが、現在、PRDESIGN JAPANという会社の社長さんをやられていて、もしかしたら皆さんご存じかもしれません。元々は佐久間さんも広報やデザインの会社ではなくて、埼玉県の三芳町にお勤めになられていた公務員だったのですね。

自治体の広報紙がありますが、最近はあまり読まないかもしれません。あまり自分も読まないのですが、「広報世田谷」や「広報板橋」など、役所や役場が作っている市の広報物で広報紙というものがあるので、その編集を一人で全てやっていたというすごい方で、印刷以外は全て自分で作った。元々あった三芳町の広報紙が分かりにくいということで、全て自分で作り替えたところ、非常に住民の方に響く、いい広報紙ができ上がったということで、ずっとそれを続けていたら、なんと、日本広報協会というところが主催している全国広報コンクールで内閣総理大臣賞を取った。一番上の賞まで取るようなところまで行ったということで、すごい人なのですけれども、その後、三芳町を退職されて、現在はご自身で会社を起こして、引き続きデザインなどをやっているという方です。

さすがに一人で広報物を作っただけあって、ライターとしても優秀ですし、自ら写真も撮る。フォトグラファーとしても活躍しているということで、先日もお会いしたのですが、いろいろところで講演などをされているようで、「今日は広島行くんですよ」と大きなリュックを背負っていたので、「何が入ってるんですか」と言ったら、「もちろん」と言ってカメラが出て来たということで、広報の題材になりそうなものがあれば、社長自ら写真を撮ったりして、いろいろなものを作っているのかなということ、やはりすごいなと思いました。

佐久間さんは本も何冊か書かれておまして、自分も3冊か4冊ぐらい買って読んでいます。

ですけれども、最初の頃は結構勉強になりました。今でも時々読み返しているのですが、広報やマーケティングなどは本屋に行けばたくさん並んでいますし、どれも内容は素晴らしいものなですけれども、あとは自分に合う・合わないなど、人それぞれになるので、たまたま自分は佐久間さんの本が合っていたかなと思います。

何冊か出されている中で、必ず佐久間さんがどの本でも書かれているのですけれども、一つ広報にとって非常に重要なことがあって、自分は個人的にこれが一番基本になるのではないかなと思うのですが、「伝えること」と「伝わること」はイコールではない。「伝える≠伝わる」と、数式で言うとそのようになるのですかね。勘違いをしてしまうことが多いと思うのですが、伝えようと思ったことが全てきちんと伝わりとは限らないので、そこをきちんと考えたうえで広報などは作っていかねばいけないということを、佐久間さんは述べておられます。当たり前のことですね。聞いた方も「そんなの分かってるよ」と思うと思うのですが、いざ自分たちでポスターなどの広報資材を作ろうと思って実際に作業をしていると、ふと頭から抜け落ちてしまうのですね。

というのも、これは経験があるかもしれませんが、広報物に限らず、資料などでもそのようなのですが、「今度の会議用に資料を作るぞ」とみんなで協力して作っていると、だんだん自分たちが作っているものに愛着が出てくるのです。わが子はかわいいというわけではないですが、勝手に「よし」と。「結構いいものできたから、みんな見たら驚くよね」、「みんな理解してくれるよね」と思ってしまうことは、よくあるかと思います。また、作っていくうちに、だんだん中身を練っていると、いろいろと付け加えたくなくなってしまったりするのですね。「あれも入れようか、これも取り入れようか」と付け加えた結果、そもそも最初に伝えたかったことが何だか分からなくなる。ごちゃごちゃになって、後から見返したら、ぼやけてしまったという資料などが時々あります。

そのような形で、「これなら分かってもらえるだろう」、「これなら、みんなに見てもらえるだろう」という、今風に言うと「刺さる」とよく言われますけれども、刺さる広告を作ったと安心してしまう。ただ、これは大きな間違いを犯していて、しかも、それに気づいていないということになるのですが、この時点で、伝えることと伝わることはイコールではないということが頭から抜け落ちてしまっているのですね。伝わるかどうかは、調査やチェックなど、事前にテストもしていないですし、「これ、どう？」と誰に聞いたわけでもない。確かに一生懸命作ってはいるので、それは大変な労力なのですけれども、自分たちで作って、自分たちで満足してしまっている。これは、広報物ではなくて、一般的な成果物といいますか、いろいろな資料についても言えることなので、同じような経験のある方もいらっしゃるかもしれません。

その結果、いいものを作ったのに全く響かない、「今回は刺さらなかったね」ということになるわけです。ただ、自分たちは、作ったというところで変な達成感はあるので、「まあ、いいか」と、そこで終わってしまうということがあります。変な言い訳を試みたり、「時代がついてこなかったかな」と言ったり～これは少し誇張した言い方ですが～、あげくの果てには、「やっぱり年金制度は難しいからね」と他人事のようなことを言いだしたり。変に自分たちで納得して、なぜだめだったのかあまり顧みなかったというようなことも、われわれは今までありました。

結局、どれだけいいものを作っても、伝わらなければ広報としては0点で、本当に仮に時代がついてこなかったのだとしても、それは時代を読み違えていますので、やはり0点なのです。

ね。「伝わる」ことをあまり考えずに今までやってきてしまったのではないかという反省も込めて、広報検討会で皆様からいろいろなご助言やご意見をいただいて、とにかく横道にそれないように、きちんと作っていきこうということでやっております。

よくありがちなことだとは思うのですね。自分が思っていた結果がうまく出なかった時に、反省をしないのだけれども、しているようなことを言ってそのまま終わってしまうということは、よくあるかと思います。例えば、最近では聞かなくなりましたが、私はサッカーが好きで、よく見るのです。サッカーの日本代表が今のように強くなる前に、代表戦で頑張るのだけれども負けてしまったりして、負けたあとにインタビューを選手がされるのですが、よく聞いたことは、「自分たちのサッカーができなかったです」という、よく分からない言い訳というか、敗者の弁ですね。一見、分析しているようなのですが、結局は敗因が何かつかめていない。自分たちのサッカーができなかったということは、戦術なり、戦略なり、自分たちのやろうとしていたことが全く相手に通じなかったということなのですが、「だから？」というところで終わってしまうことと似ている。そのようなところは見直していかなければいけないということで、昨年の4月からやっています。

ちなみに、サッカーファンの方に怒られてしまうので言いますが、今の日本代表は全く違います。強くなっていますね。きちんと分析して、勝つサッカーができるようになっていいると思います。負けないサッカーもできるようになっていますね。相手に勝ち点をやらないサッカーですか。そのようなところまで今の日本代表は強くなっていますので、私も来年のワールドカップが楽しみです。



少し横道にそれてしまいましたが、そのようなことがありましたので、まず、既存のコンテンツにどのようなものがあるかを整理しました。それがこちらです。縦軸・横軸で書きましたが、縦軸は専門性です。上に専門性が高い方から、専門性が低い下に。物によっては難易度や使いやすさなどに読み替えていただければよろしいです。横軸は、どれだけの人に広められる

かという広さ。狭い範囲をターゲットにしている左から、広い範囲をターゲットにしている右に。広報に触れることができる接触者数という感じで考えていただければと思いますが、年金広報企画室の設置前が、どのようになっているのだろうということで整理をすると、このような感じになっている。

左側が、対面。実際に人間どうしの触れ合い。右側の方が、インターネットやDM、ポスター、チラシなど、いろいろな広報物です。左右に分けていますけれども、それなりに物はあったのですね。ホームページもありましたし、ホームページには、いろいろな制度説明の動画や漫画などもあった。年金広報企画室ができるちょうど1年前に年金広報検討会ができたと先ほど申し上げましたけれども、年金広報検討会ができたあとに、学生との対話集会和、年金広報コンテストと、年金ポータルというポータルサイトですね。こちらを作ったということがありますので、年金広報企画室ができる1年以上前は、この三つがなかったという形になります。そうすると、結構スカスカだということが分かると思うのですが、そのような状態でした。

詳しく説明していくと時間がないので、後で主だったところを説明しますが、右上あたり、ある程度専門性の高いものがホームページに載っていることが分かると思います。ただ、空白の所が、今、できていないということになります。右上のホームページは横並びにしていますが、本当は中ほどにまとまってあると考えてください。それぞれのホームページの分かりやすさや、触れる度合いの差を表しているわけではなく、右上中ほどにあると考えると、結構、隙間があることに気づいたわけです。空いている中程度の専門性や右下の大勢が触れる入門的のところをまず埋めていくことが先なのではないかということで、活動を始めました。



今はどうかというところですが、開いている所を埋めてみたというような図になっていますけれども、学生の対話集会。大学で今までやっていたのですが、中学や高校でも始めました。なかなか対話が中高生だと厳しいということもありましたけれども、モデル授業などをやり始

めているところです。また、年金ポータル。横に書いていますけれども、大体年金ポータルと重なるのですが、前回の法律改正で被用者保険の適用基準を見直しまして、短時間労働者の適用基準も来年の10月に変わりますが、そのようなものを周知・広報する被用者保険の特設サイトを作りました。ガイドブックとチラシも一緒に作っています。

それから、右下です。漫画と動画と「見える化」Webという、これは何かということですが、これまでもホームページで制度説明をしています。もちろん情報が古くなれば見直すことは必要なのですが、ここの制度説明は、このままで役割としてはいいのだろうと。ただ、ここに行く前の段階の土台となる知識をつけないと、誰でも気軽にホームページを見て制度を理解するという事は、なかなか難しいのではないかと。難しいこともあってお役所のホームページは見ないのかもしれない。これは事実なので、言ってしまうのですが、そのようなところもありましたので、広く皆さんに見ていただくという考え方はそのままに、少し専門性を落とした形で、誰もが親しみやすいものを作ったらどうかということで、いろいろと考えました。

その結果、今までであれば、「じゃあ、またポスター作りますかね」という感じで自己満足で作って、あまり効果がないというようなことをやっていたかもしれないのですが、いろいろと考えて作ろうということで、漫画と動画と、これは来年の4月からスタートします。今、作っている途中ですので、実際に世に出ていないのですが、「見える化」Webと、この三つを作っているということでございます。

年金対話集会

学生と厚生労働省（年金局）職員が年金をテーマに語り合うことを通じて、学生が年金について考えるきっかけにするとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かす。

- 概要
 - ・ 全国各地の大学などで開催（対面開催、オンライン開催）
 - ・ 年金制度の説明を行った後、座談会形式で年金をテーマに学生と職員が意見交換
 - ・ 開催後、厚生労働省ホームページや大学・市町村の広報誌等で様子を公表（予定）
- 応募期間
 - ・ 令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木）
- 開催実績

（令和元年度：6校）	（令和2年度：9校）
5月12日 愛知県立大学	10月30日 東北大学
7月25日 北海道大学	11月13日 帝京大学
7月30日 東北公益文科大学	11月17日 熊本大学
9月25日 県立広島大学	12月 4日 福岡大学
10月 3日 帝京大学	12月 9日 愛知県立大学
10月 8日 大妻女子大学短期大学部	12月11日 高崎経済大学
	12月22日 東北公益文科大学
	1月12日 成城大学
	1月19日 横浜国立大学

対面による学生との対話集会



オンラインを活用した学生との対話集会



8

全部は解説できないのですが、どのような内容のものをやっているかということで、設置された、あるいは始まった順で資料を並べましたので、一つ一つ簡単に説明をしていきます。これは、年金対話集会、学生との対話集会ですね。広報企画室ができる1年前からやっておりますので、今年で3巡めというか、3年めという形になっております。われわれ年金局の職員が全国の大学に行って、いろいろな学生の方と対話をする。社会保障などのゼミをやられている教授の教室に行くことが多いのですが、そのようなところで対話を行っております。開催実績

は、令和元年、2年、3年と増えてきて、

【参考】令和3年度（前半）の中学、高校、大学での開催実績（17校）

○ 5月14日	名古屋大学（オンライン）	
○ 5月18日	一橋大学（対面）	
○ 5月20日	お茶の水女子大学（オンライン）	
○ 6月8日	上智大学（オンライン）	
○ 6月10日	北海道大学（オンライン）	
○ 6月17日	東海大学（オンライン）	
○ 6月21日	熊本大学（オンライン）	
○ 6月28日	帝京高校（対面）	★
○ 7月2日	帝京大学（対面）	
○ 7月5日	市川市立第二中学校（対面）	●
○ 7月7日	愛知県立大学（対面）	
○ 7月8日	愛知学院大学（前半：オンライン、後半：対面）	
	立教大学（対面、オンライン）	
○ 7月12日	市川市立塩浜学園（対面）	●
○ 7月13日	成城大学（オンライン）	
○ 7月15日	盛岡大学（オンライン）	
○ 8月11日	角川ドワンゴ学園（N/S高等学校、N中等部）	★●（オンライン）

● 中学校
★ 高校

なお、令和3年度（後半）は、大学については10校程度の開催を見込んでいる。

9

今年はコロナの影響でオンラインでやっているということもあって、割と開催しやすいということもありますが、前期だけで17校ほどやっております。後期も先月から開始しまして、10校ほどやろうということで、今、やっているところでございます。

第3回 令和の年金広報コンテスト

次代を担う若い世代の皆様と一緒に、年金（公的・私的）について考えることを目的として、ポスター部門、動画部門の2部門で年金の広報に関する作品を募集。※日本年金機構「わたしと年金」エッセイと同時期に実施。

- **応募期間**
 - ・令和3年6月1日（火）～9月10日（金）
- **賞**
 - ・部門ごとに厚生労働大臣賞、年金局長賞、協賛特別賞等を授与予定。
 - ※協賛団体は日本年金機構、年金積立金管理運用独立行政法人、国民年金基金連合会、企業年金連合会、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構を予定。
- **審査手続**
 - ・第1次審査は、年金関係団体と協力して厚生労働省において事務的に審査。
 - ・その上で、外部有識者からなる「年金広報コンテスト審査委員会」での審査を経て各賞決定。
- **各賞の発表等**
 - ・受賞作品は、「ねんきんの日」（11月30日）に厚生労働省ホームページにて発表予定。
 - ・厚生労働大臣賞については、表彰式を開催する予定。
 - ※第2回は新型コロナウイルス感染症の影響で開催していない。

<大臣賞受賞作品>
ポスター部門



第1回（R1）広報コンテスト表彰式



10

もう一つ、これも広報企画室ができる1年前からやっているもので、今年がちょうど3年めになるのですけれども、広報コンテスト。動画とポスターの二つの部門で、誰でも応募できる

ということで、コンテストをやっています。あまり認知度がないので、応募作品がたくさん来るというわけではないのですが、

【参考】応募状況																																	
■ ポスター部門（A4サイズ） 応募件数 135件																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>応募者の年齢層</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10代（10歳未満含む）</td><td>67</td></tr> <tr><td>20代</td><td>35</td></tr> <tr><td>30代</td><td>6</td></tr> <tr><td>40代</td><td>13</td></tr> <tr><td>50代</td><td>2</td></tr> <tr><td>60代以上</td><td>6</td></tr> <tr><td>その他（法人など）</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	応募者の年齢層	人数	10代（10歳未満含む）	67	20代	35	30代	6	40代	13	50代	2	60代以上	6	その他（法人など）	6	（参考）昨年の応募件数 30件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>応募者の年齢層</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10代</td><td>3</td></tr> <tr><td>20代</td><td>14</td></tr> <tr><td>30代</td><td>4</td></tr> <tr><td>40代</td><td>7</td></tr> <tr><td>50代</td><td>1</td></tr> <tr><td>60代以上</td><td>1</td></tr> <tr><td>その他（法人など）</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	応募者の年齢層	人数	10代	3	20代	14	30代	4	40代	7	50代	1	60代以上	1	その他（法人など）	0
応募者の年齢層	人数																																
10代（10歳未満含む）	67																																
20代	35																																
30代	6																																
40代	13																																
50代	2																																
60代以上	6																																
その他（法人など）	6																																
応募者の年齢層	人数																																
10代	3																																
20代	14																																
30代	4																																
40代	7																																
50代	1																																
60代以上	1																																
その他（法人など）	0																																
■ 動画部門 応募件数 22件																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>応募者の年齢層</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10代</td><td>1</td></tr> <tr><td>20代</td><td>18</td></tr> <tr><td>30代</td><td>0</td></tr> <tr><td>40代</td><td>3</td></tr> <tr><td>50代</td><td>0</td></tr> <tr><td>60代以上</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	応募者の年齢層	人数	10代	1	20代	18	30代	0	40代	3	50代	0	60代以上	0	（参考）昨年の応募件数 3件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>応募者の年齢層</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10代</td><td>0</td></tr> <tr><td>20代</td><td>3</td></tr> <tr><td>30代</td><td>0</td></tr> <tr><td>40代</td><td>0</td></tr> <tr><td>50代</td><td>0</td></tr> <tr><td>60代以上</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>	応募者の年齢層	人数	10代	0	20代	3	30代	0	40代	0	50代	0	60代以上	0				
応募者の年齢層	人数																																
10代	1																																
20代	18																																
30代	0																																
40代	3																																
50代	0																																
60代以上	0																																
応募者の年齢層	人数																																
10代	0																																
20代	3																																
30代	0																																
40代	0																																
50代	0																																
60代以上	0																																

今年、やっとポスターが100件以上来ております。去年の30に比べれば、だいぶ来たかなという感じはするのですが、締め切りは9月で、ちょうど今、受賞作の選考作業に入っているところです。来週か再来週ぐらいに大臣賞が決まるかと思うのですが、大臣賞が決まれば、今月末の11月30日が年金の日ということになっておりまして、ここで発表しようということで、今、準備をしています。動画部門がなかなか数が増えてこないのですが、もし興味があれば、来年も6月頃から募集が始まると思うので、応募していただいてもよいかなと思っております。簡単な宣伝であれなのですが、このようなところをやっています。

社会保険適用拡大 特設サイト

令和4年10月の101人以上企業への拡大を円滑に施行するべく、各企業や従業員・国民の理解を得られるように周知する。

The screenshot displays the '社会保険適用拡大 特設サイト' (Social Insurance Expansion Special Site). It features a navigation bar with tabs for '特設サイト・動画' (Special Site/Video) and 'ガイドブック' (Guidebook). Below the navigation, there are three main content areas: '従業員500人以下の事業主のみなさまへ' (For business owners with 500 or fewer employees), 'パート・アルバイトのみなさまへ' (For part-time/contract workers), and '配偶者の扶養・範囲内でお勤めのみなさまへ' (For those working within the spouse's support range). Each area includes a brief explanation and a 'さらに詳しく' (Learn more) button. At the bottom, there is a 'チラシ' (Flyer) section with three flyer thumbnails corresponding to the main content areas.

これは、先ほど申し上げました、社会保険の適用拡大に関する特設サイトになります。サイトも作って、ガイドブックも作って、チラシも作ってということで作っております。先ほど「伝える」と「伝わる」はイコールではないと申し上げましたが、このようなものを作ったときに、伝わるかどうかを事前に確認しないと、独りよがりで作っただけになってしまいますので、われわれもサイトやガイドブックを作る時には、事前にユーザーテスト、モニター調査でいろいろな立場の方に見ていただいて、意見をもらいました。それを反映させて何度も試作品を作り直して、やっとできたものが、形になっております。あまり今までやってこなかったのですが、ちょうどこのサイトを作るところから、そのような手法を取り入れております。例えば、事業主さんの立場の意見、短時間労働者、今度厚年に入るかもしれない国民年金第1号被保険者の立場の方の意見や、第3号被保険者の方の意見などを取り入れて作ったものが、こちらの特設サイトでございます。

年金教育動画・年金教育図書

- 年金について日本一わかりやすく説明しようと思ったらこうなった

<https://www.youtube.com/watch?v=KrKPt05Jsvk>



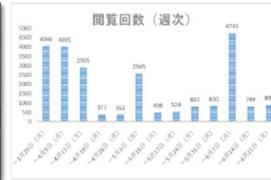
- ・公開日 : 2021年3月24日
- ・視聴回数: 59万回 (6月21日時点)
- ・高評価率: 98.8%

(主なコメント)

- ・こーゆー案件、どんどんください！すっごく勉強になります。
- ・22歳です。中学生くらいから見たかったな。
- ・若年層に人気あるQKがこういう動画をしっかりした提供で出してくれるの本当に大事！
- ・これをきっかけに若い子たちが興味を持るといなと思う。
- ・これ、学校の授業で流して欲しい。
- ※ 今後は、学生との年金対話集会や中高生向けモデル授業等において周知をしていく。

- WEB専用学習まんが『年金のひみつ』

<https://kids.gakken.co.jp/himitsu/library-social001/>



- ・公開日 : 2021年3月24日
※同日付で(株)学研プラスより全国2万校の小学校宛てにDMを発送。

- ・閲覧回数: 2.3万回 (6月21日時点)

- ※ 公開と春休みが重なったこともあり、最初の2週間の閲覧件数が多くなっている。
今後は書籍化(製本)し、全国の小学校(2万校)に順次配本する予定。
また、中高生向けモデル授業の教材として使用していく。

13

次は、厚労省のホームページは難しいので、もう少し簡単なものを作ったものが、この動画と漫画です。左側ですけれども、これは皆さんご存じかと思いますが、YouTubeで人気の動画があります。クイズを主体に面白い動画を作っている「QuizKnock (クイズノック)」というものがあるのですが、その方々にお願いをして、年金のクイズ動画を作ってもらっております。なかなか好評で、今年の3月から公開したのですが、公開から約3か月で59万回再生を記録して、先日見たら71万回ぐらい行っていて、QuizKnockさんが言うには「100万回再生は超えますね」と言ってくれていたのが、われわれも楽しみにしているところがございます。「よかったです」というコメントも多くて、年金の動画でも、「いいね」がたくさんつく動画も作ろうと思えば作れるのだなと、われわれ自身が驚いたということがございます。

もう一つ、漫画ですね。これも、できるだけ中高生、あるいは小学生ぐらいでも見られるようなものということで作りました。学研のウェブサイトに乗っている漫画で、皆さんも子供の頃、図書館などで見たことがあるかと思いますが、学研の「ひみつシリーズ」というものがずっと続いていて、最近では、書籍もあるのですが、学研の「キッズネット」というサイトに載っていて、誰でも見られるようになっていくということ、いろいろとわれわれも調べたのですが、どうも生命保険の秘密というものが既にあったのです。すごいものを作っているなと思って驚いたのですが、学研の人に「年金はありますか」と言ったら、まだないということだったので、作ってしまおうということで作りました。こちら学研のサイトに載っておりますので、もしよかったら見ていただければと思います。

3

- 令和3年度の年金広報の取り組み

令和3年度の取り組み

令和元年度に掲げた基本哲学を踏襲しつつ、令和3年度は令和2年度に作成した広報コンテンツを活用した発信を行うとともに、引き続き「令和2年年金改正法の広報」、「個々人の年金の「見える化」」及び「若年世代への広報の強化」の3本柱で展開

1. 令和2年改正年金法の広報

- 被用者保険の適用拡大
- 受給開始時期の選択肢拡大 等

2. 個々人の年金の「見える化」

- 令和2年改正年金法の趣旨をわかりやすく正確に伝え、かつ、公的年金、私的年金等を通じて個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」するための仕組みを構築

3. 若年世代への広報の強化

- 3-1 公的年金制度の仕組みをわかりやすく、正確に理解するための教育コンテンツの開発
 - 中高生向け年金教材の作成
- 3-2 国民1人1人が参加して、年金制度の意義や仕組みの理解を深める広報
 - 第3回令和の年金広報コンテストの開催
 - 学生との年金対話集会の実施

今まで話したものは去年までの取り組みで、今年に入ってからの取り組みから二つほどお話しいたします。

1 令和2年度改正年金法の周知

令和2年度に制作した「社会保険適用拡大特設サイト」などの広報コンテンツ活用し、インターネットによる情報発信や「専門家活用支援事業」などを実施する。

<特設サイト> <ガイドブック>



2 Webアプリの開発

「個々人の年金を「見える化」するため、令和3年度前半にWebアプリの試作版を開発し、年度後半にテスト（実証実験）を行う。なお、運用開始は令和4年4月（予定）。



3 若年代向け学習教材の開発

令和2年度に制作した「年金のみみつ」や「クイズ動画」を活用して広報を実施する。令和3年度は、中高生向け学習教材（オンライン）の開発を行う。

小学生向け 中学生向け 大学生以上向け

年金のみみつ 令和2年度制作

クイズ動画 令和2年度制作

QuizKnock

令和3年度制作予定 中高生向け学習教材

令和3年度制作予定 財政検定HPのリニューアル

4 若年代向け参加型広報

<大臣賞受賞作品> ポスター部門

年金広報コンテスト

次代を担う若い世代と一緒に年金について考えることを目的に「令和の年金広報コンテスト」を開催。

「学生との年金対話集会」

学生と厚生労働省（年金局）職員が年金をテーマに語り合うことを通じて、学生が年金について考えるきっかけにするとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かす。

学生との対話集会

年金の「見える化」Webサイトの開発

①令和2年度改正年金法を分かりやすく周知すること、②働き方・暮らし方の変化に伴う年金額の変化を「見える化」することを目的。
令和3年度前半開発、テスト（運用実験）は令和3年度後半、公開は令和4年4月を予定。
公開後は「ねんきん定期便」や「社会保険適用拡大特設サイト」等と接続し、年金情報をわかりやすく発信する。



	令和3年度			令和4年度							
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
簡易試算Webの開発(厚労省)	開発検討会										
公開											
開発検討会											
広報検討会は順次開催											
テスト(運用実験)及びプログラム修正											
サービス開始											

一つは、見える化のウェブサイトを先ほどお話ししましたが、今、年金額を試算しようと思うと、日本年金機構が持っている「ねんきんネット」というものがあると思うのですが、そちらにアクセスしていただいて試算すると、結構詳しく情報が出てきます。昔であれば、年金事務所の窓口まで「私の年金額、見てもらえませんか」と行かなければいけなかったのですが、最近自宅ですぐにできるので、いいのですけれども、ねんきんネットの利用者の数が思うように増えていない。それなりには増えているのですが、少し使い勝手の面では、ぱっと調べられるかという、どうもそうではないらしいと。

やはり年金の個人情報などを扱っているんで、認証などセキュリティーをがっちり固めているので、最初に手続きしてアクセスをする時にいろいろな手間がかかる。アクセスキーを1回

もらって、そのアクセスキーでアクセスしてから個人のIDが送られるなど、二段階認証になっていて、初めて使おうと思ってやりだすと、「すぐ使えないんだ」と諦めてしまう人も結構いるようです。そのような方たち用に、ねんきんネットほど精緻な計算ではないのですが、もう少し簡単な試算ができる、もっとお手軽なものを作ろうということで、年金の「見える化」Webサイトというものを、今、作っております。

これは、スマホなどでサイトに行ってください、自分の働き方や報酬などを入れてピッと押すと、試算結果が出ます。ねんきんネットほど精緻な結果にはならないのですが、少し手軽に使えるものがあればということで、2022年4月に向けて開発している途中でございます。もう少しお待ちくださいということですね。2022年4月になれば出てきますので、もしよかったら使ってみて、いろいろな場面で使えると思います。学生が使ってもいいですし、転職を考えている人も使えますし、「そろそろ受給開始年齢だな」と思われる方も。そのような方はねんきんネットの方がいいのかもしれませんが、そのような使い方もできるということで、少し利用者の目線に立ったものということで、このようなものを作っております。

若年世代向け学習教材の開発

大学生との対話集会のアンケートにおいて、年金制度について中高生等の義務教育課程で学びたいという要望が多いことから、令和3年度では、①大学生向け対話集会資料の完成、②中高生用教材を開発し、試験的に実施する。

- 令和2年度に制作した「年金のひみつ」や「クイズ動画」を活用した「モデル授業」を、高校や中学校において試験的に実施。
- 「モデル授業」を通じて教育現場に身を置く教員や学生の方々から意見を伺いながら、得られた知見を教材の開発に活用する。
- 開発するコンテンツは、中高生が年金制度を「楽しく」「わかりやすく」身につけることができるような内容とする。また、年金対話集会においても、参加した生徒が自ら進んで年金クイズ動画や年金マンガ、年金ポータルを視聴したり、年金広報コンテストに応募するといった、自然と年金に興味を持つ契機を得られるような内容とする。



18

4

- 若年世代向け年金学習教材の開発

学生との年金対話集会（わたしの年金とみんなの年金）

狙い：年金制度について、若い世代と一緒に「わたしの年金」と「みんなの年金」の2つの視点で考えること。

前半：講義方式



わたしの年金とみんなの年金



厚生労働省年金局
総務課年金広報企画室長 古川弘剛



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

- 第1部：**
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？
- 第2部：**
年金って破たんする？将来、先細っていく？
- 第3部：**
「わたしの年金」について考えてみよう。
「みんなの年金」について考えてみよう。
年金制度の未来をみんなで創ろう。

後半：座談会方式



最後が学習教材ですけれども、今まで大学生との対話集会ということでいろいろとやってきましたが、それを今年から中高生に拡大いたしまして、今、モデル的に、1学期は三つ。高校一つ、中学二つで年金のモデル授業をやってみました。

学生との年金対話集会（アンケート）

1. 本日の年金対話集会に参加した感想を教えてください。

- 全体を通してとても分かりやすく、年金制度について本当に何も知らない人でも講演をしっかりと聞けばその仕組みはおおむね理解できると感じた。これから一生に渡って生きるために関わっていく大事な制度なので、詳しく内容を知って自らの今後を考える、このような機会を設けていただき感謝している。
- 世間から批判されているイメージの多い制度ではあったが、思った以上に緻密に制度が設計されていることを理解できた貴重な機会だった。今後の制度の改革にも注目していきたいと思う。
- 寿命が延びすぎた高齢者の生活を支える役割を、無理やり負わせられる悪質な制度という認識をしている学生はいると思うし、自分も少なからず思っているところがあったが、今回の講演を通じて年金に対するイメージはかなり変わった。
- 年金という堅苦しいイメージがあったが、難しいと思っている私でもイラストがわかりやすい図や話してくださった雰囲気聞いていて関心を持つことができた。
- 自分のための年金という事ではなく、「みんなの年金」という、いつもと違う視点から年金について考えることができた。
- 「私の年金」と「みんなの年金」という棲み分けによる考え方が非常にわかりやすかった。年金制度は、将来の予測できないリスクのためにあり、その点では「私の年金」でも「みんなの年金」でも共通する点なのだわかった。ただ「私の年金」では、自分の将来のライフプランについて、「みんなの年金」では、日本の経済の将来について視点を改めて考える必要があると思った。
- メディア等から得られる情報のイメージから年金制度にネガティブなイメージを持ちがちだが、実際に自分で仕組みを理解し考えることが重要だと思った。
- 自分自身、まだ年金受取に関して考えるような年齢ではなかったため、真面目に年金に関して考えたことがなかったが、そもそもの制度の概要や厚労省の方々がこれからのように取り組んで行こうとしているのを知り、これから自分で考えてるよいきっかけとなった。
- 働き方が多様化してきた事により従来の制度では対応が難しいケースも多数出てきており、必ず向き合わなければならないが解決するのが困難な問題にどう解決していくのかについて考えるのは面白そうだった。
- 年金局の方の話を直接聞ける機会は滅多にないのでとても有意義な時間だった。年金制度は難しいですが今回の集会を通して理解を深めることができた。年金は人間が生きていくうえでとても重要な制度なのだと思った。今日学んだことを家族に教えてあげたい。

学生との年金対話集会（アンケート）

2. 前半の講演について

① 分かったことを教えてください。

- 少子高齢化社会においても年金制度を存続させていくための仕組みが整えられていること、また5年に一度の財政検証を通じて現行制度のチェックがしっかりと行われていることがわかった。
- 今まで制度設計についてよく知らず、年金制度はしきに破綻するのではないかと考えることもあったが、5年ごとに制度を見直すなど、年金制度が破綻しないような仕組みが存在していることを知り、少し安心した。
- 財源や定期的な制度の見直しなどは、知らないことが多かったので大変勉強になった。
- 将来のことがどうなるか予想するのが難しいから、年金が必要なのだとということが分かりました。
- 私は、今まで、18年間生きてきて、大きな物価変動を感じたことがなかったため、1970年頃と現在の物価の比較を見て、とても驚いた。年金制度は、人々の人生のさまざまなリスクに備えるために、非常に重要なものであることがわかった。
- 今回の集会に参加して、年金制度の存在意義を感じるとともに、今まで自分がいかに人生に潜む、リスクについて考えたことがなかったのかということがわかった。
- 正直、障害年金や遺族年金のことはそれほど知らなかったので勉強になった。
- 年金は国民年金の保険料が財源であると考えていたが、基礎年金の半分が税金を財源としていることがわかった。

2. 前半の講演について

② もっと知りたかったことを教えてください。

- 分かりやすさ重視だったこともあり、専門的な学びについては少なかつたと感じた。また厚生労働省がしている仕事についてもより詳しく知れると、年金の根幹の部分まで考えることが出来たと感じた。
- 今後、年金という制度がどう移り変わっていくのか、可能性の部分の話を聞きたいと思った。自分でも考えてみようと思う。
- 高齢者・女性などが働きやすい環境を作って、保険料を増やそうと思うと、支払う保険料が多くならぬような働き方を選択する可能性もある。働く環境の整備だけでは不十分であり、やはり年金の制度の見直しが重要だと思う。その部分についてもう少し聞いてみたかった。
- 令和6年度に行われる制度点検では具体的にどういった改善が行われる予定なのか知りたかった。
- 「マクロ経済スライド」をもっと詳しく知りたいと思った。
- 年金を受け取る額の世代間格差について、多くの若者が注目するところだと思うため、もう少し具体的なデータや考えを聞きたかった。
- 年金額の賃金改定率と物価改定率の説明をもう少しわかりやすく詳しく知れたらよかった。
- iDeCo や積立NISA についてもっと知りたかった。

学生との年金対話集会（アンケート）

3. 後半の意見交換について

① 分かったことを教えてください。

- 特に自分たちのようなこれから年金に触れる世代に関しては、年金のことをちゃんと知らない人が多いんだろうなと感じた。そして、そのため厚生労働省の方は広報の工夫をされていることが分かった。
- 思っていたよりも同級生たちが年金に興味を持っていたことに驚いた。
- 年金制度について厚生労働省の方から直接分かりやすい話が聞けたので良かった。グループの人数が多くて一部で話している感じがあったので1グループ10人くらいできるともっとよかった。
- 授業では分らなかつたことを多く学ぶことができた。もし次の機会があれば、ZOOMではなく、実際にお会いして直接お話しを伺いたい。
- マクロ経済スライドは、景気が悪いときは基本的にやらないものになっているが、将来的な年金のことを考えると、景気が悪いときもやった方がいいという視点があること。
- 現在の賦課方式から積立方式に移行しようとした場合、移行期に保険料の二重負担などの問題が生じるということがわかった。
- 老齢年金が多いイメージが私たち自身にあるため、自ら資産運用すればよいのではないかと考えてしまうが、老齢年金以外の年金にも注目する必要があることがわかった。
- 経済的に困窮している家庭には、支払いを免除する制度がしっかり年金制度に備わっていることがわかった。
- 20歳になってからどのようにして年金を払っていけばよいのかということがわかった。

3. 後半の意見交換について

② もっと知りたかったことを教えてください。

- 年金に対する不信感を払しょくするにはどうしたらよいかという点について、もっと話したかった。
- 厚生労働省が世間向けに作成している資料から、年金制度がかなり緻密に設計されていることについて伝わらないように感じたため、どのようなプロモーション方法が効果的か話し合いたかった。
- これから年金を納める世代に対する更なる周知のためにはマンガや動画等のコンテンツだけでなく、例えば中学・高校くらいの公教育の中で年金について考える機会がもっとあっても良いと思うが、具体的な取組について聞いてみたかった。
- 職員の方々の主観的な意見をもっと聞いてみたかった。
- 厚生労働省の方が、年金が必要だと考える理由や、今後考えている政策などについてもっと聞いてみたかった。
- 年金を払わずギャンブル等にお金を使い、老後生活に困ったら生活保護を申請をすることが理論上可能であるが、私はコツコツ頑張ってきた人達の税金でそういう人を養う事には懐疑的である。個人の人權や自由と照らし合わせて考えると支給する他ないが、そこで生じる不公平についてどう考えているのかも少し掘り下げて聞きたかった。
- 非正規雇用者の多くは雇用が安定しないため、老後のための貯蓄や私的年金の利用、資産運用が正規雇用者に比べて格段に難しいと思う。こういった人達に対して、年金の支給額を増やすなど、公的年金による社会保障の強化の可能性はあり得るのか聞きたかった。

アンケートを取ったところ、それほど難しい話はしなかつたので、

年金学習教材の開発に向けた中学校・高校での授業の概要

■ 開催状況

令和3年6月	帝京高校（3年生）
令和3年7月	市川市立第二中学校（2年生） 市川市立塩浜学園（8年生）※小中一貫校
令和3年8月	角川ドワンゴ学園（N/S高等学校、N中等部）※オンラインで実施

《主な改善点》

- ①帝京高校での授業の経験から、学生との対話集会で使用している資料である程度理解してもらえることがわかった。また、学生からの意見を踏まえて、学生と直接対話する機会を増やす授業構成に変更することにした。
- ②市川市立第二中学校での授業の経験から、中学生がどの程度理解できるのか、相場観を把握することができた。また、「わたしの年金とみんなの年金」という訴求をやめることにした。
- ③市川市立塩浜学園の授業では、訴求ポイントを「みんなで創る未来の年金」に変更、また、年金動画の上映部分を1回→2回に変更することで理解の深化及び離脱者の削減を図ることができた。
- ④学生が主体的に参加できるイベントを切り口に関心を持ってもらう狙いで、角川ドワンゴ学園の説明会では「年金広報コンテスト」の紹介を追加した。

《授業内容》（市川市立塩浜学園の事例）

※年金漫画（年金のみみつ）は事前に送付

- 第1部：**
厚生労働省って？
社会保険って？教科書になんて書いてある？
- 第2部：**
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？
→年金動画上映
- 第3部：**
年金って破たんする？
将来、先細っていく？
→年金動画上映
- 最後に：**
年金制度の未来を
みんなで創ろう。



アンケート結果

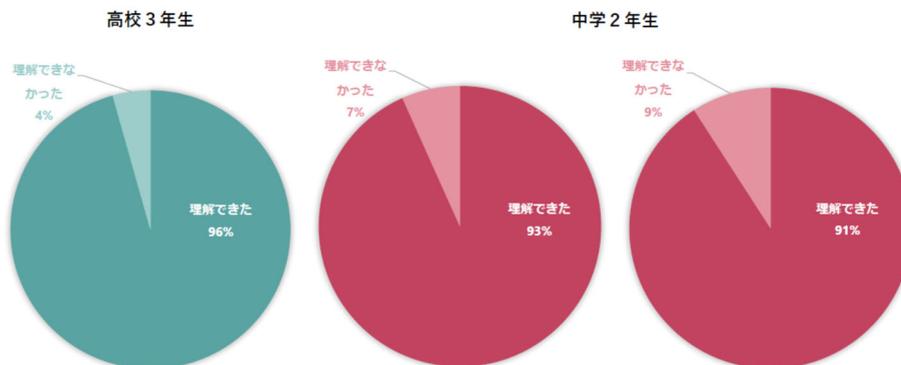
■アンケートの主な設問

- ・資料の内容はどうでしたか？
- ・講師の説明はどうでしたか？
- ・20歳になったら「国民年金」に加入することを理解できましたか？
- ・年金制度を建物にたとえると、1階が国民年金、2階が厚生年金、3階が私的年金であることが理解できましたか？
- ・年金は、3種類（老齢・障害・遺族）あることを理解できましたか？
- ・年金について、もっとくわしく知りたいと思いましたか？
- ・年金制度は必要だと思いますか？
- ・年金制度が必要だと思った理由を教えてください。
 1. 老後の生活を支えるから
 2. 病気やケガなど万が一のために必要だから
 3. 世代と世代の支え合いだから
 4. 国民の義務だから
 5. 国の制度なので安心できるから
 6. その他（自由記入）
- ・年金制度が必要ではないと思った理由を教えてください。
 1. 自分で貯金しておくので大丈夫
 2. 自分は病気やケガをしないので大丈夫
 3. 老後も働いてお金をかせぐので大丈夫
 4. 将来年金をちゃんともらえるか不安（もらえないかもしれないから）
 5. 将来のことはまだ考えていないのでわからない
 6. その他（自由記入）
- ・授業を受けての感想、意見など（自由記入）

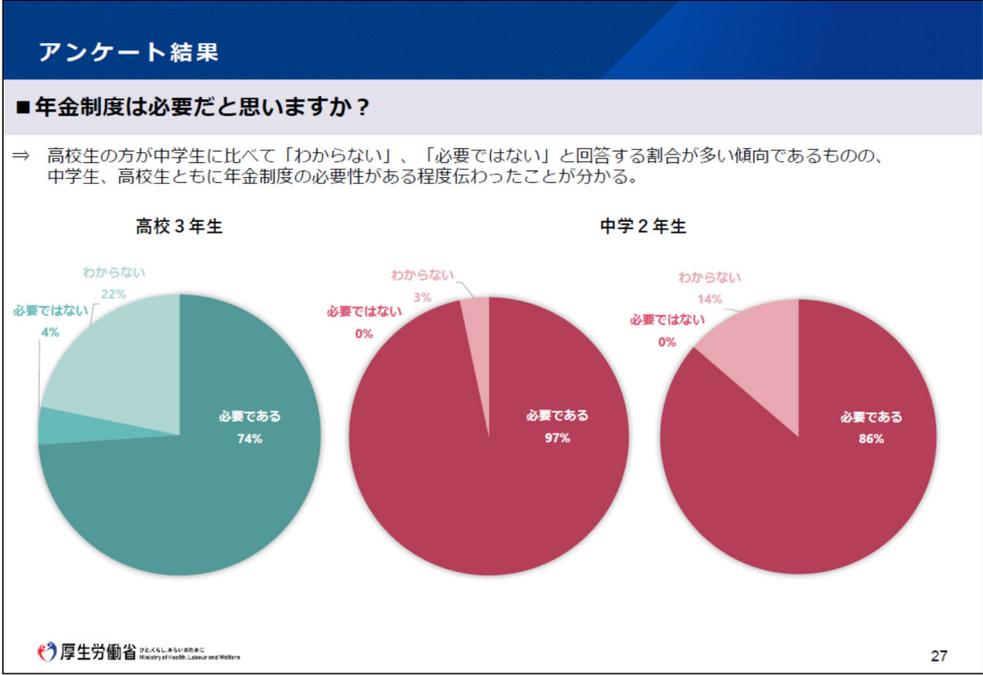


アンケート結果

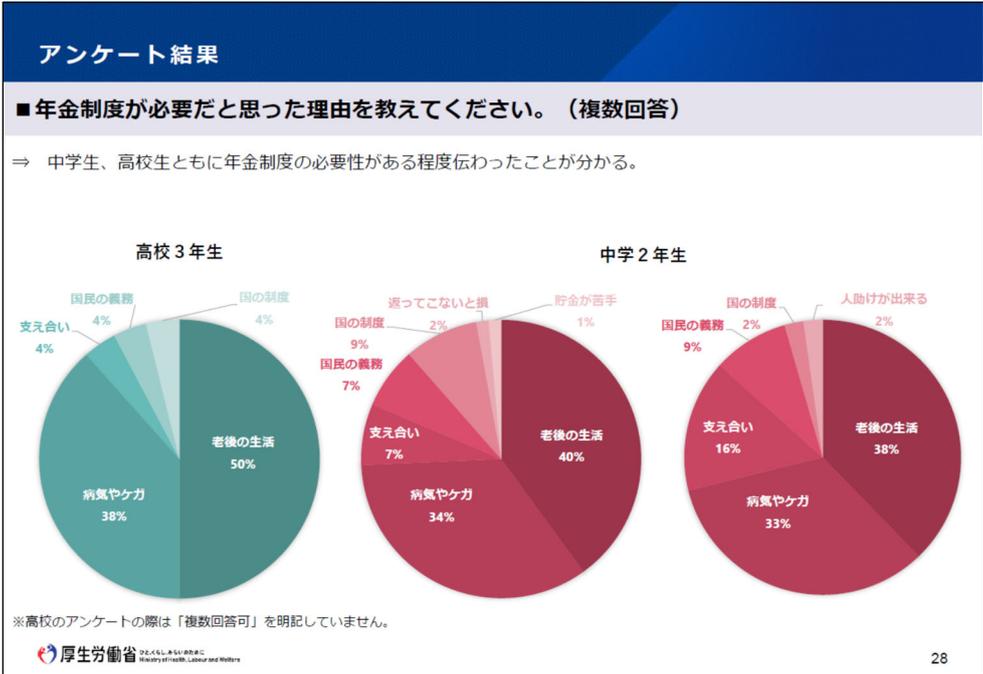
■年金は、3種類（老齢・障害・遺族）あることを理解できましたか？



ある程度理解できたという結果が出ているのですが、幾つかあるうちで面白いものが、

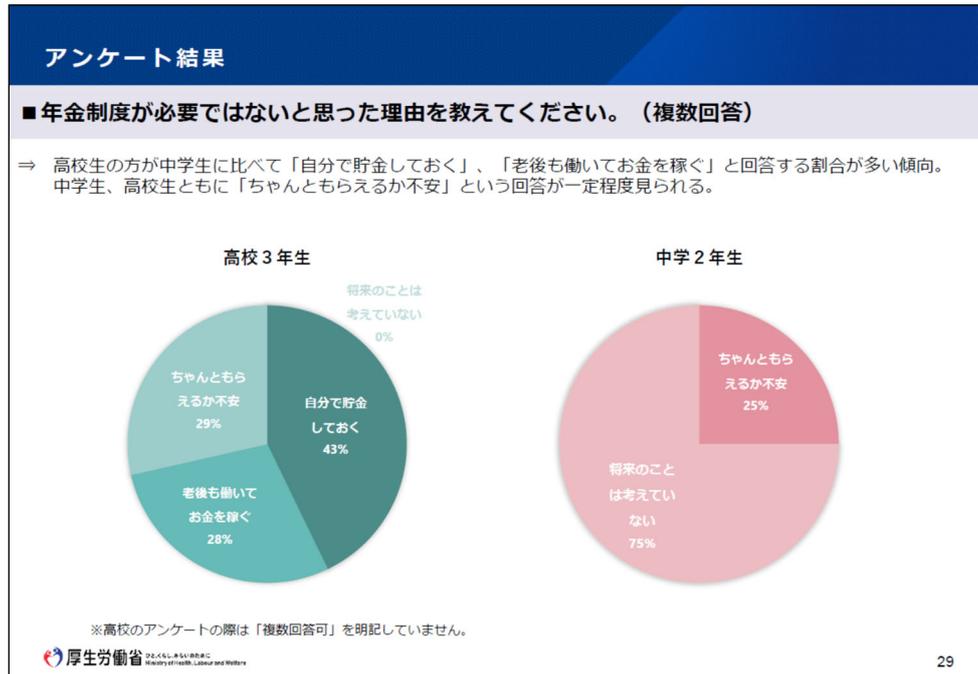


「年金制度は必要だと思いますか」というアンケートを授業が終わったあとにやったところ、高校生ですと、「必要ではない」ということがだんだん出てくるのですね。中学生だと、「分からない」というのは分からないのしょうけれども、「必要である」と「分からない」が回答として出てきたという形になっております。やはり分かってくると、「よく考えたら、必要とは思わないな」ということが高校生になってくると出てくるのが分かりました。



なぜ必要だと思ったのかということも更に聞いてみたところ、老後の生活、病気やけが、支え合いという形で、これは高校生も中学生もともに、ある程度必要だと思った方に対しては刺

さっている。刺さるという表現を使ってしまいましたが、伝わっていることが分かりました。



では、必要ではないと思った方に対して理由を聞いてみたところ、さすがに中学生は、まだ分からないというものが多かったようで、よく分からないということで「必要ではない」とつけたのではないかと思うのですが、将来きちんともらえるか不安ということは中学生でもあるということと、まだ将来のことは考えていないということがある。高校生になりますと、さすがにいろいろと考えていますから、「貯金しておくから大丈夫です」、「働くから大丈夫です」。将来もらえるか不安ということもあるのですが、さすがに高校生になると「将来のことは考えていない」は0%で、きちんとみんな自分の未来、将来のことは考えているということで、違った意味で安心はしたのですけれども、このような結果が出ています。

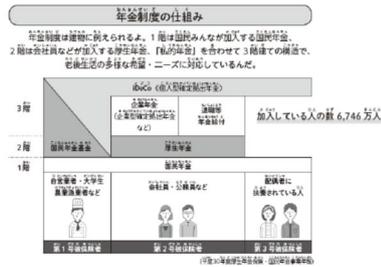
アンケート結果を基にした分析の1例

■年金制度を建物にたとえると、1階が国民年金、2階が厚生年金、3階が私的年金であることが理解できましたか？

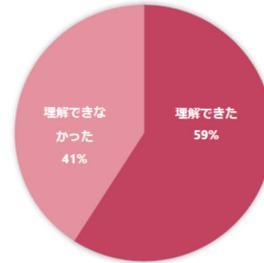
※あえて説明を省略した内容に関する設問（資料中「年金のひみつ」（まんが）に載せている図を抜粋して掲載はしている）

⇒ 授業でとりあげなかったテーマであり、この部分の理解度が他のテーマと比べて低いことから、アンケート全体の信憑性の高さが伺える。一方で、年金漫画（年金のひみつ）に掲載している図であり、年金漫画は事前に学生に目を通してもらっていたので、理解できたと回答した割合が一定程度いた。このため、この程度の内容が中学生が自分で資料を読んで理解できる（あるいは独学できる）境界線になると考えられる。

授業の資料（年金漫画P.32抜粋）



中学2年生



一つだけ、これは実験的にやったのですけれども、中学生のアンケートを見ていたら、みんな「理解できた」と丸をつけていたので、きちんと聴いてくれているのかわれわれの方が不安になって、中学生も中学生ながらにそんたくして、われわれにいいような回答でされている方もいるのではないかと考えられます。それと、アンケートを後日、先生に提出してもらったところがあります。先生から回収してもらっているもので、無記名にしたのですけれども、担任の先生だと誰がどのようなアンケートを書いたか文字で分かってしまうので、「俺だけ理解できてないの、超恥ずかしいじゃん」と思うと、隣の人と相談しながら、とりあえず「理解できた」に丸をつけておくかということもあったかもしれません。

この問いは、皆さんもよく見る3階建ての図～老齢、基礎、厚年、さらに私的年金という～は資料に載せているのですけれども、時間の関係で話さなかった時があり、そのときに「分かりましたか」と聞いたら、意外と「理解できた」が59%あって、なぜかと思ったら、年金の先ほどの学研の漫画を事前に配っていたので、それを見た方がいたということはあるのです。それにしても少し「理解できた」が多かったかなと思うのですが、逆に「理解できなかった」もかなり多かったので、やはりこのあたりは、中学生にとってはきちんと説明してあげないと分からないところなのかなということが分かりました。

授業を受けた主な感想、意見

高校3年生

- ・政経で予習しましたがより深く詳しく年金について知ることができました。図の詳細があるとわかりやすいのではないかなと思いました。
- ・年金システムの成り立ち、必要性、メリットがわかると有難いです。
- ・年金を納めずに年をとってから、お金が足りなく、生活保護に逃げる人達の対策などはありますか？
- ・年金財政に影響を与えるもの①～③についての説明がちょっと難しく、内容が頭に入ってこないことがあります。ただ、説明するのではなく質問などを入れて、雰囲気が高まることによって、内容が頭に入りやすいと思います。
- ・意見としては、スライドの資料の内容は分かりやすかったのですが、ページをめくる中で、中学校等の生徒にとって自分の中で整理がつかず少し混乱してしまうかもしれないと思いました。同じ中学生でも、立場によって言葉を変えていくことで、皆が理解できるのではないかなと思います。
- ・この先のことについては、P30の、どんな仕事をしていたか、何歳まで働きたいか、退職後はどんな暮らしがしたいか、そのためにはどれくらいのお金が必要ですか？という4つの質問についてです。この先ことはまだわかりませんが今まででここまで大きいこと（将来のこと）をあまり考えられていない中でも考え、授業後、友達と話し合ったら意見がわかれ、考えさせられることもありました。授業の意見としては、私的年金・資産運用のところではイデコちゃんと呼んでワニーサ（P31）のことが書いてあったのでこの部分も紹介するとさらに楽しくわかりやすい授業になると思います。これから大人になり、年金という言葉が出てきても、子供ができた年金のことを詳しくわかっていないお友達に教えたいです。

中学2年生

- ・年金は将来破綻してしまうのではと思っていましたが、授業を受けて、年金制度はしっかりと工夫されていて安心できたし、もっと年金のことを知りたいです。授業楽しかったです。
- ・なぜTVや本で年金が破綻するということが出まわっているのですか？
- ・動画が途中で有りその後も集中して話を聞くことが出来ました。
- ・少し未来の「不安だなあ～」と思っていたことが今日理解できたので安心した。古川さんのお笑い芸人の三半に似ていると思った。
- ・難しく3割くらい分からなかったけど、年金が無くならなければ良かったです。
- ・説明するだけじゃなく、少し考える時間があると良いなと思いました。例えば、19ページの質問などで周りの人と話したりする時間があると良いと思います。今回はありがとうございました。
- ・もう少し年金制度のしくみや少子高齢化にむけての対策の説明を簡潔にまとめてくださると嬉しいです。
- ・内容が分かりやすくて、年金は1種類ではなく3種類あったのは知らなかったから、知れてよかったです。ありがとうございました。
- ・年金についてのまんがが、資料をもらったので、授業が終わったあとにそれで確認できた。年金についての知識が増えた。
- ・祖父が年金をうけとっているから、いろいろ知れてよかった。授業をしてくださりありがとうございました。

みなさん、アンケートに協力いただきありがとうございました。



これからの取り組み

中学校・高校での授業や学生との年金対話集会を踏まえて、分かりやすいビジュアルや図表を活用した年金学習教材（初級編及び中級編）を作成中。

初級編：みんなで創る未来の年金（案）

- 第1部：**
厚生労働省って？
社会保険って？教科書になんて書いてある？
- 第2部：**
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？
- 第3部：**
年金って破たんする？将来、先細っていく？
年金制度の未来をみんなで創ろう。

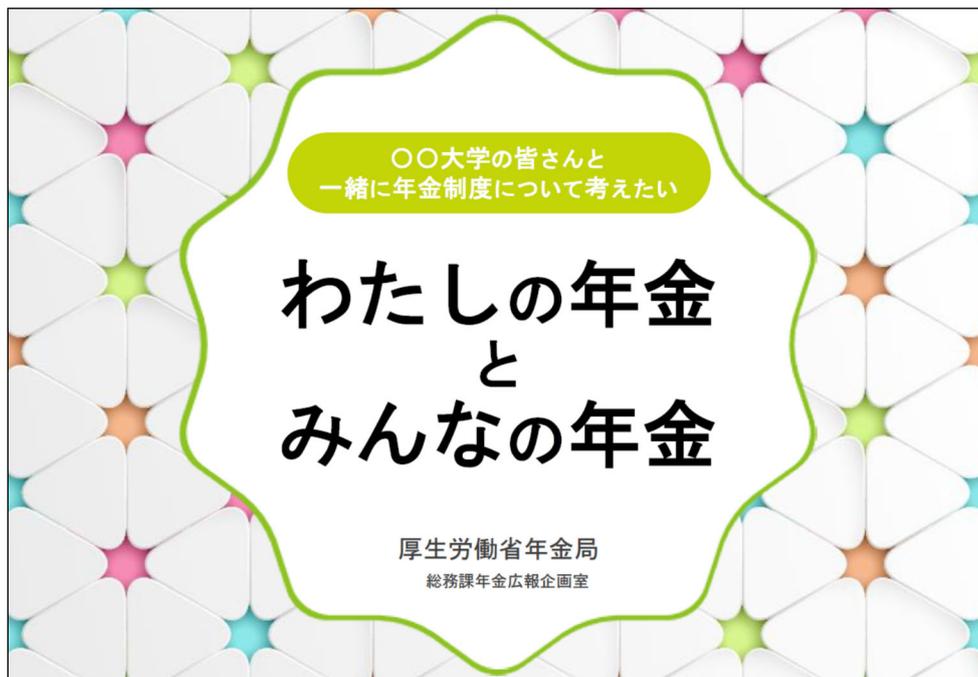
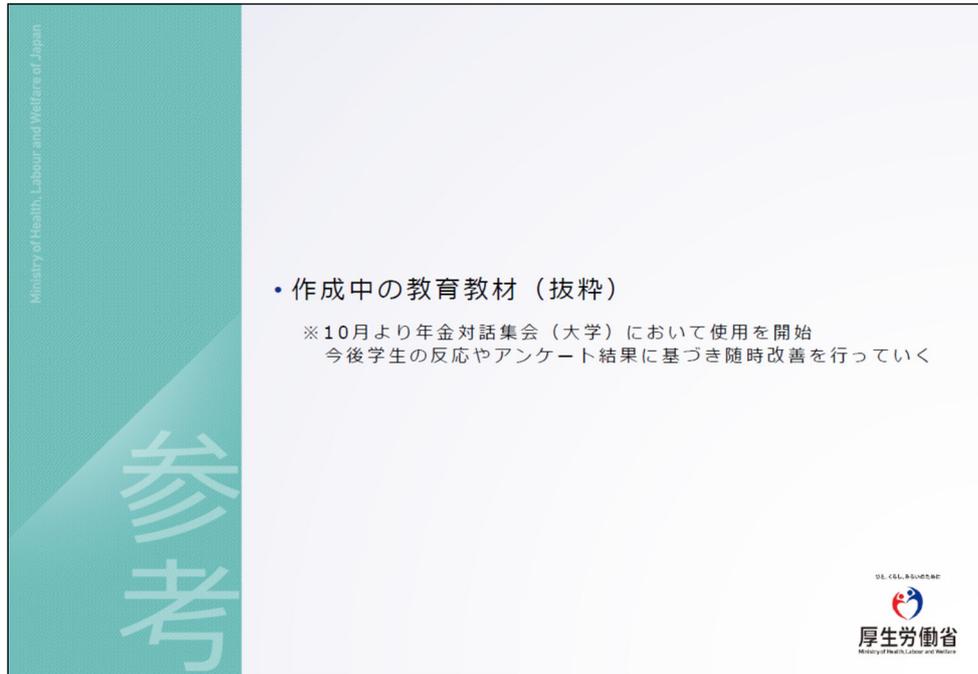
中級編：わたしの年金とみんなの年金（案）

- 第1部：**
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？
- 第2部：**
年金って破たんする？将来、先細っていく？
- 第3部：**
「わたしの年金」について考えてみよう。
「みんなの年金」について考えてみよう。
年金制度の未来をみんなで創ろう。

小学生向け 中学生向け 大学生向け～



このような授業を蓄積していきまして、今、学習用教材を作っているところでございます。どのようなものを作っているかという、中級編ですね。今、大学生との対話集会で使っているものを、内容をもっとよくして、中級編を一つと、中学・高校でも使えるような初級編ですね。少し中級編よりも易しいものということで、この二つを、今、作っているところでございます。

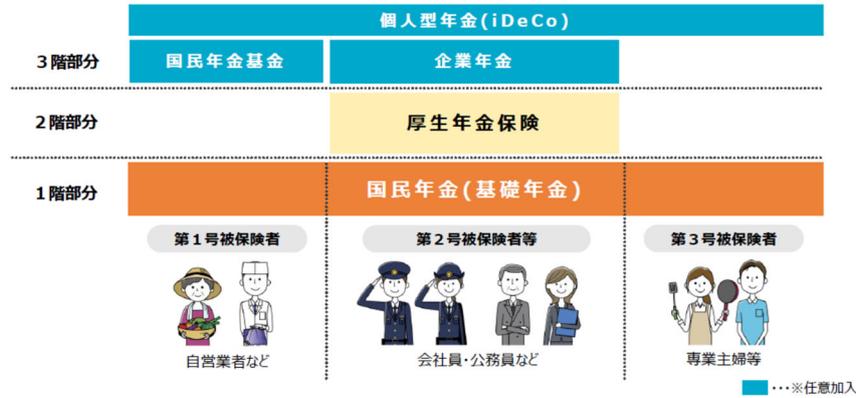


これは参考で見ただけであればいいのですが、実際に作っている教材はこのような感じだということで、全て付けると 50 ページを超えてしまって、最初は付けていたのですが、ファイルがお送りできない重さになってしまったので、頭の 10 ページですけれども、このようなものを作っております。

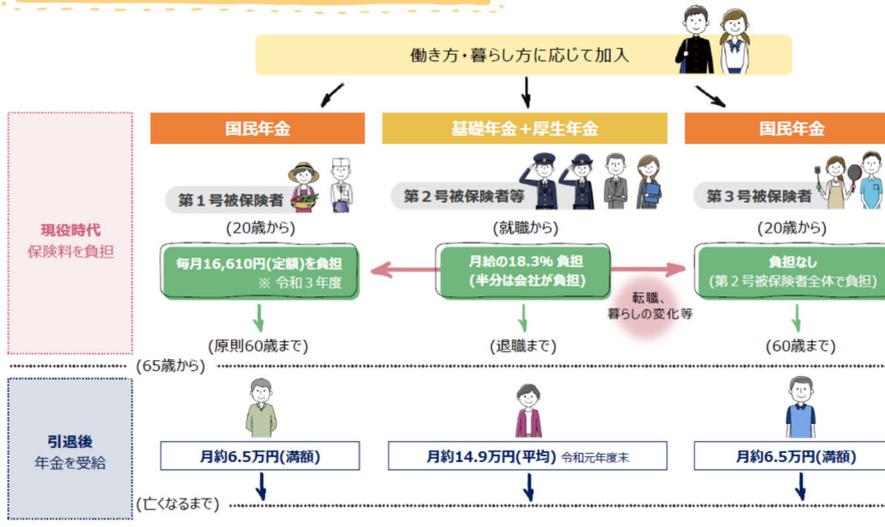


年金制度の仕組み

- ✓ 年金制度は、「3階建て」の構造。
- ✓ 1・2階部分の公的年金が国民の老後生活の基本を支え、3階部分の企業年金・個人年金と合わせて老後生活の多様なニーズに対応。

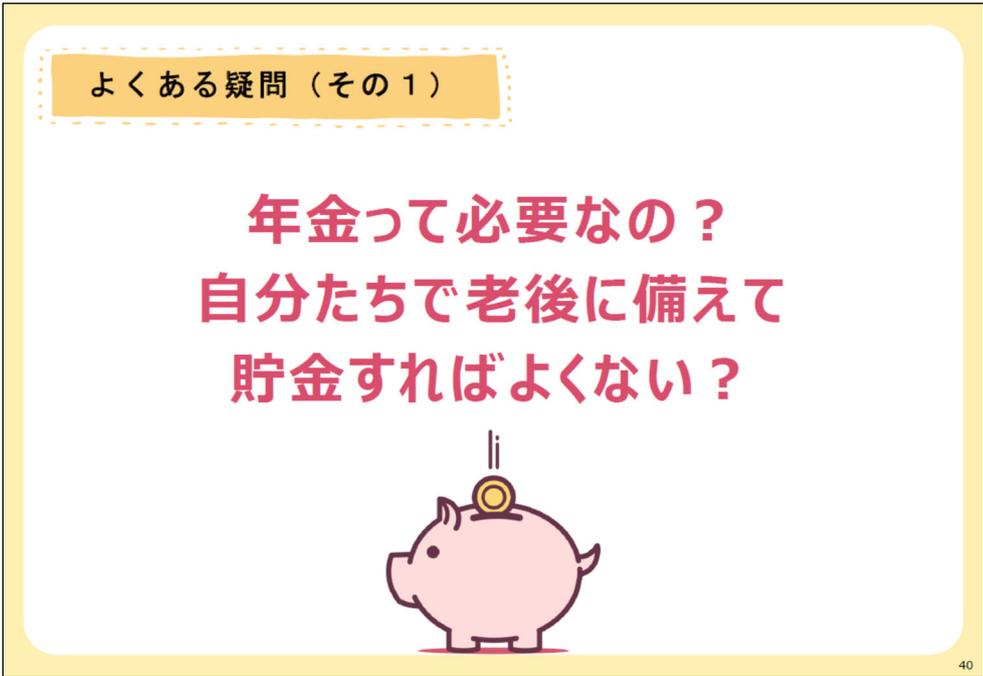
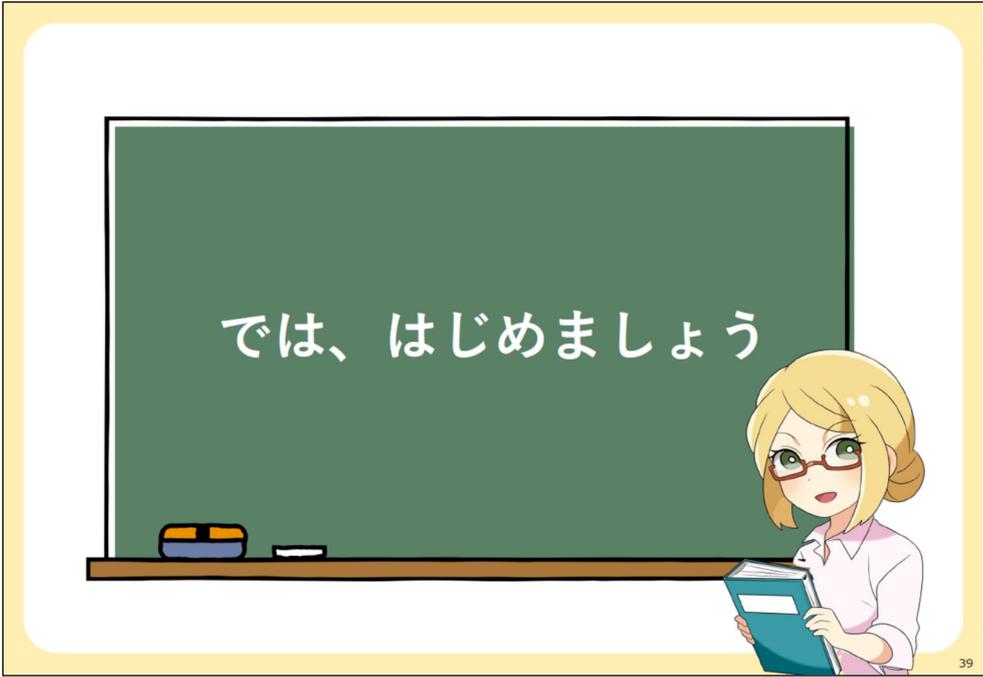


公的年金制度とライフコース



主な年金制度改正 (年表)

制度の創成	1942年	労働者年金保険法の発足 (昭和19(1944)年に厚生年金保険法に改称)
	1954年	厚生年金保険法の全面改正
制度の充実	✓ 1961年	国民年金法の全面施行 (国民皆年金)
	1965年	1万円年金
	1969年	2万円年金
	1973年	5万円年金、物価スライド制の導入、標準報酬の再評価等
高齢化への対応	✓ 1985年	基礎年金の導入、給付水準の適正化等
	1990年	被用者年金制度間の費用負担調整事業の開始
	1994年	厚生年金(定額部分)支給開始年齢の引上げ等
	1997年	三共済(JR共済・JT共済・NTT共済)を厚生年金に統合
	2000年	厚生年金(報酬比例部分)の支給開始年齢引上げ、裁定後の年金額の改定方法の見直し(物価スライドのみ)等
	2002年	農林共済を厚生年金に統合
	✓ 2004年	上限を固定した上での保険料率の段階的引上げ、マクロ経済スライドの導入、基礎年金の国庫負担割合の引上げの法定化等
	2009年	臨時的な財源を用いた基礎年金国庫負担割合2分の1の実現
	2012年	消費税込収を財源とした基礎年金国庫負担割合2分の1の恒久化、特例水準の解消、被用者年金制度の一元化、厚生年金の適用拡大、年金の支給資格期間短縮、低所得・低年金高齢者等に対する福祉的な給付等
	2016年	マクロ経済スライドの見直し(未調整部分の繰越し)、賃金・物価スライドの見直し(賃金変動に合わせた改定の徹底)等
2020年	厚生年金の適用拡大、在職中の年金受給の在り方見直し(在職高齢年金制度の見直し、在職時改定の導入)、支給開始時期の選択肢の拡大等	



まずは、皆さんに質問です！



自分が何歳まで生きるか
予想できますか？



老後にどれくらいお金が必要か、
考えたことはありますか？



今の1万円のもものが、将来、
いくらになるか予想できますか？

41

何歳まで生きる？

65歳の女性は何歳まで生きる？

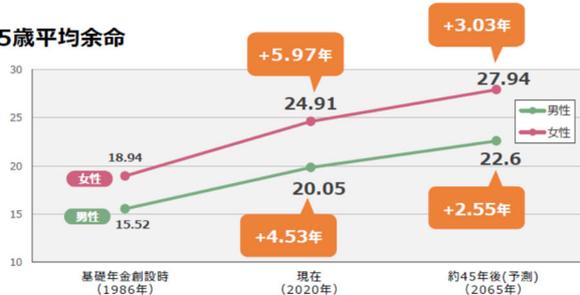
70歳	80歳	90歳	100歳
98%	88%	62%	16%

65歳の男性は何歳まで生きる？

70歳	80歳	90歳	100歳
94%	74%	37%	4%

※2020年に65歳の場合
出典：厚生労働省「完全生命表」「簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」より試算したもの。

65歳平均余命



出典：厚生労働省「完全生命表」「簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」

これは、あくまでも
平均だよな…。
何歳まで生きるのが
予想するのは
難しいなあ。



42

実際に後期の対話集会は、先月から始まったと言いましたけれども、大学ではこれを使い始めて、今、修正をしているところですので、またそのうち、ある程度内容が固まってきたところで、年金広報検討会のような場でおひろめをしたいと思っていますところ。

これからの取り組み

中学校・高校での授業や学生との年金対話集会を踏まえて、分かりやすいビジュアルや図表を活用した年金学習教材（初級編及び中級編）を作成中。

初級編：みんなで創る未来の年金（案）

第1部：
厚生労働省って？
社会保険って？教科書になんて書いてある？

第2部：
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？

第3部：
年金って破たんする？将来、先細っていく？
年金制度の未来をみんなで創ろう。

中級編：わたしの年金とみんなの年金（案）

第1部：
年金って必要なの？
自分で老後に備えて貯金すればいいのでは？

第2部：
年金って破たんする？将来、先細っていく？

第3部：
「わたしの年金」について考えてみよう。
「みんなの年金」について考えてみよう。
年金制度の未来をみんなで創ろう。

小学生向け 中高生向け 大学生向け～



年金のひみつ クイズ動画

年金学習教材（初級編） 年金学習教材（中級編）

「学生との対話集会」

厚生労働省 厚労省 Ministry of Health, Labour and Welfare32

中高生向けも、後期も少しモデル授業をやりたいと思っておりまして、そのようなところでまたブラッシュアップして、いいものを作っていくたいということで、このような形で取り組んでいます。

ひととおり資料に沿って話しましたが、それほど難しいことはわれわれはやっていないというか、本来やるべきことが今までできていなかったという反省がたくさんあったということで、そのようなところを一步一步反省しながら、今、高校および中高生向けの教育ですね。このようなところの取り組みをしているということでございます。少し最後は急ぎ足になって申し訳ございませんでしたが、質問コーナーを取るということですので、このあたりで私のお話は終わりにして、司会の井出さんにお戻しします。

司会 小金井様、大変ありがとうございました。それでは、頂いている質問が一つあるので、こちらについてご回答をお願いします。「今後、20代、30代の職員の配置や、マーケティング、教育の専門家を招聘する予定はありますでしょうか」と。ご説明の中でお話があったような気もしますが、お願いいたします。

小金井 はい。質問、どうもありがとうございます。これは、われわれの広報企画室に新たにということでしょうか、それとも広報検討会にということでしょうか。

司会 広報検討会にということだと思います。専門家という意味で、専門家が厚生労働省さんにいるというわけではないと思いますので。

小金井 そうですね。分かりました。一応、広報検討会の委員の方の話として、お答えを一旦します。この広報検討会は、特に委員は定員が決まっていないので、われわれが何か広報として展開していくときに、「こういった意見が聴きたいな」、「こういった知見を持っている方と

お話ししたいな」ということがあればお願いをして、了承いただければ構成員になっていただくということでやっております。ですから、今、誰がということはないのですけれども、今後、中高生のモデル授業や中高生向けの教育を考えていく上で、教育関係者、例えば学校の先生などが入ってくるようになるかもしれませんが、まだ検討中ですので、ここでは言えないのですが、スタートした時は、先ほど申し上げた佐久間さんは入っていませんでしたね。途中から委員に加わっていただいております。

あとは、国際大学の准教授の山口先生も最初は構成員ではなかったのですが、途中からお願いして入っていただいた先生です。山口先生は、知っている人もいるかもしれませんが、炎上のメカニズムを研究されていまして、うちも、先ほどあえて話さなかったのですが、今、ホームページに載っている年金財政の漫画ですね。「年金子」と書いてトシカネコさんという女性が出てくるのですが、その漫画が何年か前に炎上してしまったことがあって、その経緯を山口先生が取り上げて分析されて、たしか本にも載っていると思います。見たことがあるかと思うのですが、当然われわれは、炎上や「これはNGだ」など、そのようなところも気に留めながら広報を作っていかなければいけないということで、ぜひ山口先生のお力をということで途中から入っていただいたという形になります。今後も、必要であれば、われわれの欲しい見識をお持ちの先生や著名な方がいらっしゃいましたら、お願いして、引き受けていただいたら構成員に加わってもらうという形になるかなと思っております。

司会 小金井様、ありがとうございます。それでは、残り時間が少しありますので、私からご質問をさしあげたいと思います。「広報は、広く理解してもらい、考えてもらうという社会的機運を醸成することが目的にある」というお話だったのですけれども、効果が見えにくい施策ということだろうと思います。そのあたりについて、効果測定についての何か具体的なKPIというか、測定用の基準というものは、お持ちなのでしょうか。

小金井 ありがとうございます。これは、今、ご質問にあったとおり、非常に難しいのですね。最近ではポスターなどをあまり作らなくなったのは、効果が全く分からないのです。ポスターやチラシなどは、非常にいいポスターだと、駅などに貼ってあるポスターが盗まれるなど、昔はよくありましたけれども、それぐらいでないともみんなに響いていないことが分からないので、広報のコンテンツがどれだけ効果があって、どれだけ広まっているかを知ることは、かなり難しいというところはあります。ただ、インターネットの世界で考えますと、閲覧数や、先ほどの動画ではないですけれども、そのようなものが一つの指標にはなるのですが、あれも、「いいね」があれば本当にいいのか、視聴回数が100万を超えればいいのか一概には言えないのですが、数が多ければ、それなりの人が見ているという一つの指標にはなるのではないかと思います。

あとは、これはこれから何年かかかると思うのですけれども、今、20歳になると国民年金に加入します。大体、大学2年生や3年生ですね。そのときに、「年金って何？」ということにならないような世界ができてくれば、学生たちが中高生の時にうちの動画や漫画を見たりしたのかなということで、何となく雰囲気分かる。そのようなことはあるのかもしれませんが、「この数値を使うと全部効果が取れますよ」というものは今のところなくて、今後どのようにしていこうかということ、模索しているところでございます。回答になっていないかもしれませんが

んが、基本的にそのような指標は、今のところ、われわれの中ではないという回答になります。

「ないのにやってるのか」と言われると、それはそうなのですが、そこは今後の検討課題ということで、「伝える」と「伝わる」はイコールではないというところがまた頭から落ちていないかというお叱りがあると思いますので、そこは真摯に受け止めて、今後検討していきたいと思っております。以上です。

司会 小金井様、ありがとうございます。それでは、時間になりましたので、ここで終わりにさせていただきたいと思えます。小金井様、本日は、お忙しい中ご講演いただき、大変にありがとうございました。また、ご参加いただきました皆様方におかれましても、大変にありがとうございました。このあとのお時間で、ご質問やご感想について、スライドの方に投稿していただくと大変にありがたいと思えます。ぜひ感想の提出をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、セッション「年金広報の教育の取組みと在り方」について、終了させていただきます。